

課題名 肥料の種類とミカンの生育、収量、品質

成果の要約 緩効性窒素肥料、有機配合肥料、高度化成肥料のいずれを用いても、生育、収量、果実品質に違いはみられなかった。

緩効性窒素肥料（CDU態窒素）、有機配合肥料（有機率98%）高度化成肥料（リン安系）の肥効の違いについて調査した。

1. 生育、収量とも樹体間の変動が大きく、処理間に有意な差は認められなかった。
2. 果実品質の面でも、着色度、糖度についても処理区間の差は小さかった。なお、有機配合肥料区では浮皮指数が小さく、酸含量がやや高い傾向がみられたが、有意な差とは認められなかった。

第1表 生育状況

項目 年度(年数)	幹周 (cm)	幹周の年間増大量 (cm)			樹容積 (m ³)	樹容積の年間増大量 (m ³)		
		47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55~56 (9~10)		47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55~56 (9~10)
処理区	5.6 (1.0)	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55~56 (9~10)	5.6 (1.0)	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55~56 (9~10)
緩効性窒素肥料	42.7	2.0	2.2	2.7	26.3	2.5	1.8	3.8
有機配合肥料	43.5	1.8	2.2	3.3	29.9	2.6	2.2	4.6
高度化成肥料	42.1	2.5	2.1	2.1	26.2	2.5	2.3	2.6

第2表 収量の推移

項目 年度(年数)	収 量 (Kg/樹)				収 量 指 数			
	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55 (9)	56 (10)	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55 (9)	56 (10)
緩効性窒素肥料	42.2	45.5	70.4	64.0	101	86	99	97
有機配合肥料	40.6	50.9	67.2	64.5	98	96	94	98
高度化成肥料	41.6	53.0	71.2	66.0	100	100	100	100

成

第3表 おもな果実形質の推移

(指数)

項目 年度(年数)	浮皮指数			着 色 度			糖 度			酸 含 量	
	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55~56 (9~10)	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55~56 (9~10)	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)	55~56 (9~10)	47~50 (1~4)	51~54 (5~8)
緩効性窒素肥料	94	106	102	100	100	101	101	100	101	101	100
有機配合肥料	86	79	74	99	98	101	101	101	101	100	108
高度化成肥料	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	(473)	(263)	(323)	(109)	(110)	(112)	(106)	(114)	(97)	(092)	(092)

績

概

(注) ()は測定値で、酸含量はg/100ml

要